

# インドネシア西スマトラ州パダン沖地震災害に対する JICA 国際緊急援助隊医療チーム 緊急活動報告

神戸赤十字病院 中田正明

## 【地震発生の概要】

- (1) 発生日時: 9月30日 17時16分(現地時間: 日本時間 19時16分)
- (2) 震源地: 西スマトラ州パダン市西南西 45 キロメートル
- (3) 震源の深さ: 80 キロメートル
- (4) 地震の規模: マグニチュード 7.6(アメリカ地質調査所発表)
- (5) 被害状況:

震源地に近い町では多数の建物が損壊。インドネシア報道等(日本時間 2日 20時現在)によれば、死者約 1,100名、負傷者約 2,300名、数千名が建物の下敷きになっている模様。

上記災害に対し、外務省は JICA 国際緊急援助隊(以下: JDR) 医療チームの 23名の派遣を決定した。

10月1日 13時45分派遣希望者募集→14時30分締め切り→15時派遣者決定→第1陣 19時30分成田集合

上記のような、過去の前例にない程の緊急の召集そして派遣であった。これまでの医療チーム派遣は、救助チームの派遣が災害発生から1・2日後にあり、約5~7日後に入れ替わりで医療チームの派遣という流れであったが、今回は救助チームと同じ超急性期に現場に救援に向かうという初めての試みであった。



JDR 医療チーム登録隊員である私も、この派遣に手を挙げ選出され派遣決定となった。この前例にない程の早い流れでの派遣に参加できたのも、当院の放射線科部のスタッフ全員の理解とサポートに尽きると感じており、本当に感謝している。

10月14日まで約2週間の医療活動を



行い、延べ1、450名の患者の診療を実施した。現地では毎日40℃を超える猛暑で、途中体調を壊す者もいたが、全員無事にミッションを終え帰国することができた。

私の主な活動は、FPD システムポータブルX線装置での撮影と、診療患者データ集計と管理、さらにロジスティクス業務であった。ロジスティクス業務とは、診療活動のサポート業務の事であり、診療環境整備や隊員の生活環境整備、患者受付、受付前トリアージ等の様々な業

務がある。

このように災害医療現場ではチームがいかに良い活動ができるかを考え全員で協力し、自分の専門分野以外のチームとしての業務も重要となり、チーム全体として成果をあげるという意識がポイントになってくる。特に海外での活動になるとよりその意識が必要である。これこそがチーム医療の原点であると感じた。

X線撮影においては、総患者数の一割弱（82名）の撮影を実施した。主に地震時に受傷した骨折などの外傷と、感染症の流行もあり呼吸器疾患に対する胸部撮影であった。呼吸器疾患に関しては、乳幼児～小児の患者が多いのが目立った。

今回の派遣により、本当に貴重な経験をすることができた。これは私のこれからの医療従事者として、また人としての人生に大きな影響を与える事となるだろう。

この貴重な経験を私に快く与え、2週間もの期間業務において協力いただいた、我が神戸赤十字病院/兵庫県災害医療センター放射線科チームにこの場を借り深く御礼申し上げ、身近にこのような素晴らしいチーム医療があることに感激するばかりである。

